

能登半島沖地震に伴った泉源温度の変化*

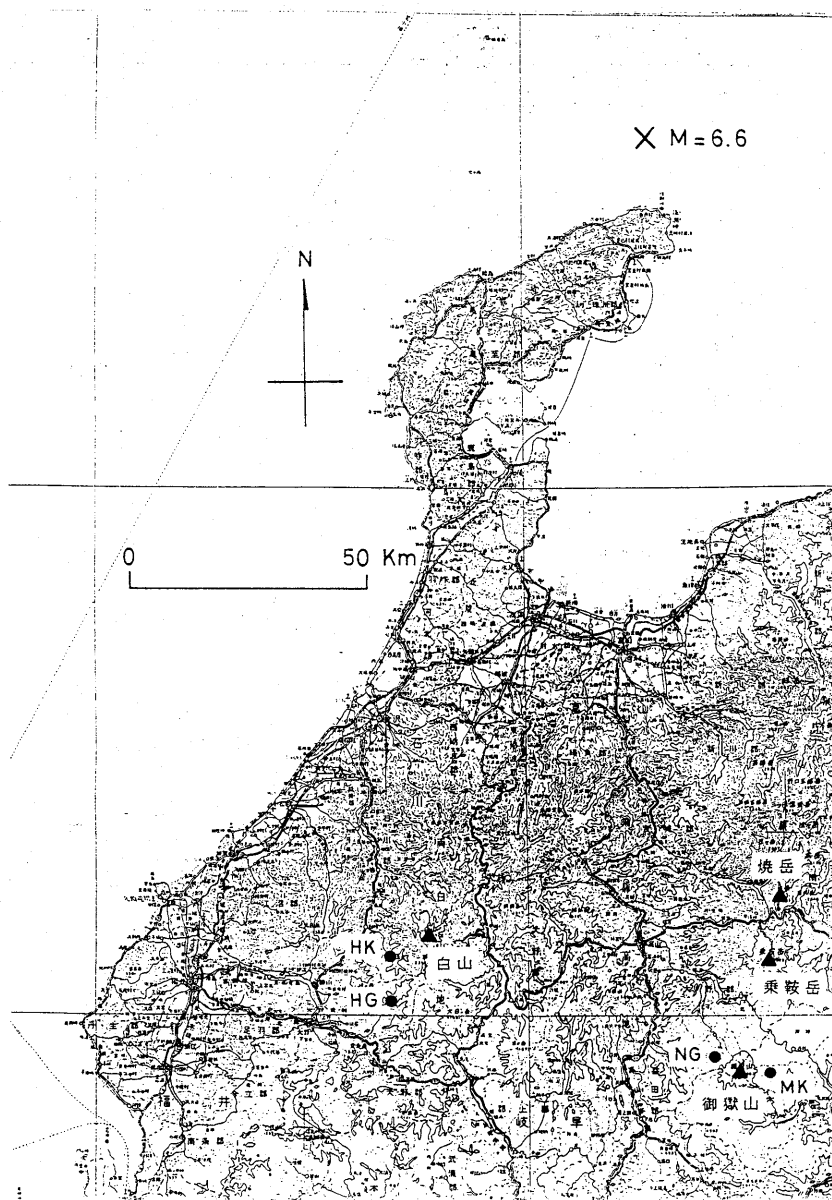
Changes in temperature of hot springs related to the earthquake off the Noto Peninsula.

名古屋大学理学部
Faculty of Science
Nagoya University

名古屋大学理学部では火山性の地震活動との関連を調べる目的で、御獄山と白山の山麓において泉源温度の予備的な観測を始めた(第1図)。設置した温度計は毎時1回データロガーに記録する方式で、単1電池で約15カ月連続動作する。地震活動等に敏感に応答することがわかった観測点では記録間隔を短くしたり、テレメーター化等する計画である。現在、御獄山・白山とも山麓に2カ所の観測点がある。どの地点も断線したり、水が入ったりで記録は満足に取れていない。

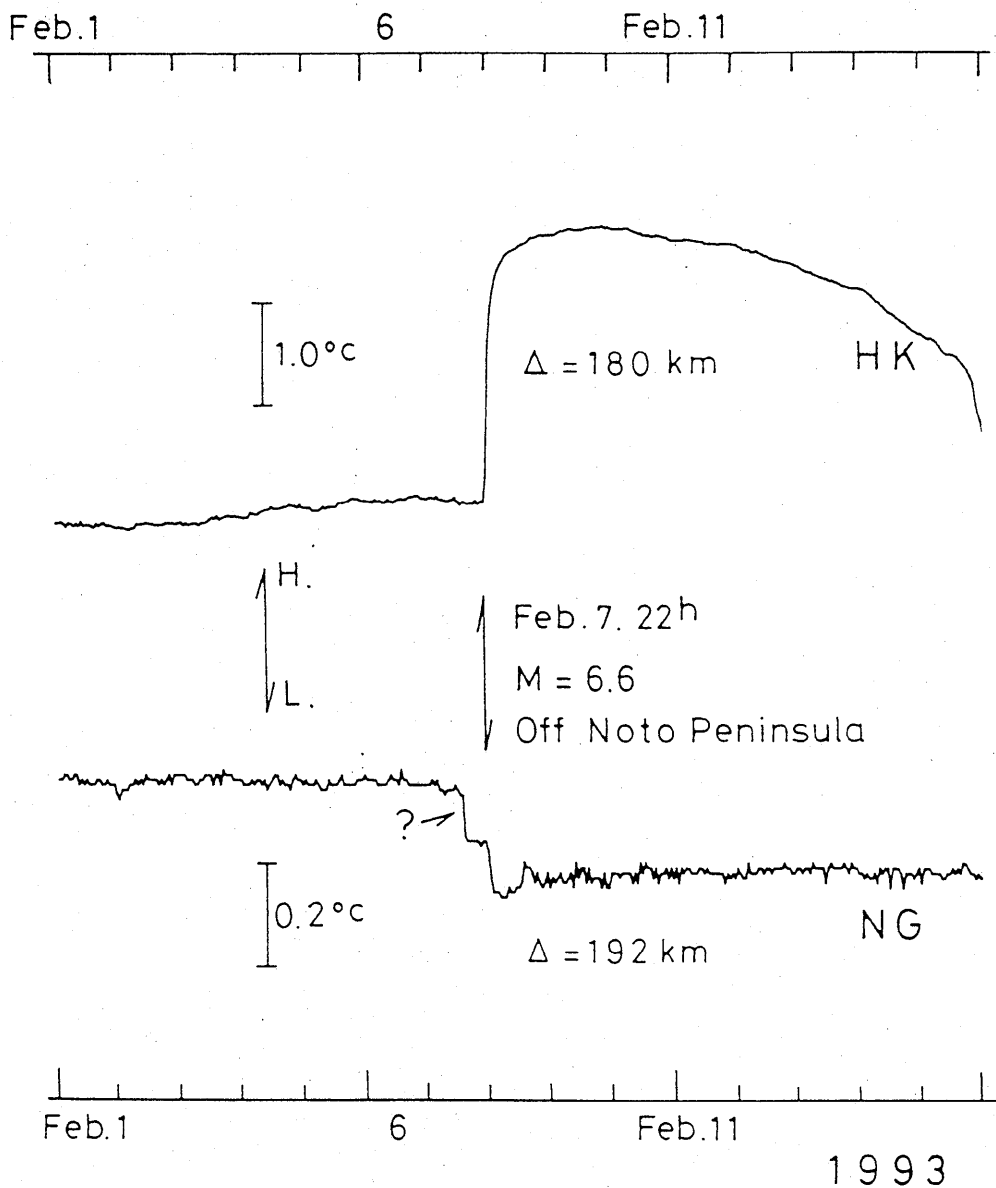
1993年2月7日の能登半島沖地震(M=6.6)前後の白峰(HK, 白山西山麓)と濁河(NG, 御獄山西山麓)の泉源温度の変化を第2図で示す。両地点は震源からかなり離れているが地震により温度が大きく変化した。第3図はHKにおけるやや長期間の泉源温度の変化である。また、第4図はNGにおけるやや長期間の泉源温度の変化である。NGにおける?を付けた温度変化の原因は現時点では不明である。

* Received 15 Apr., 1994



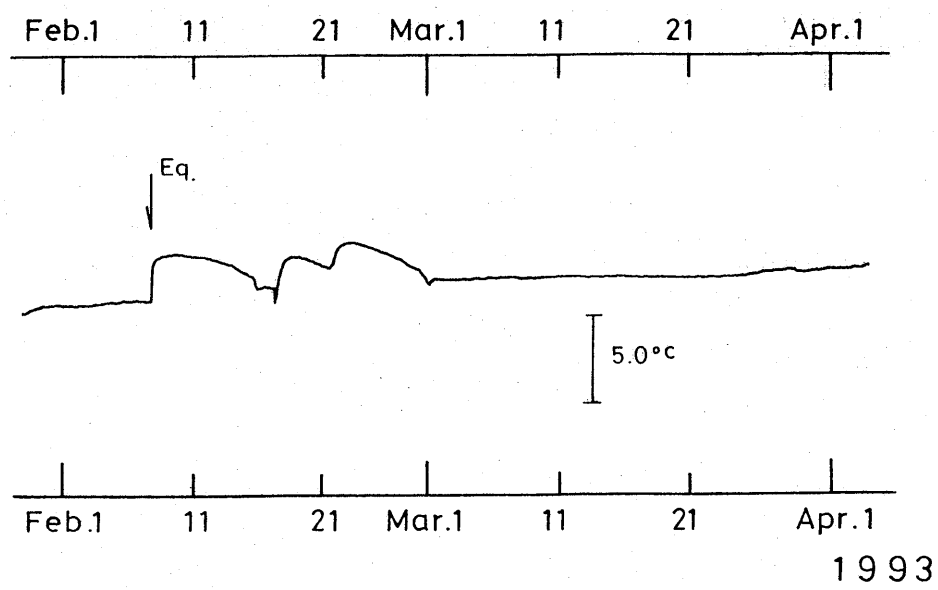
第 1 図

Fig. 1 The distribution of observation sites and active volcanoes.



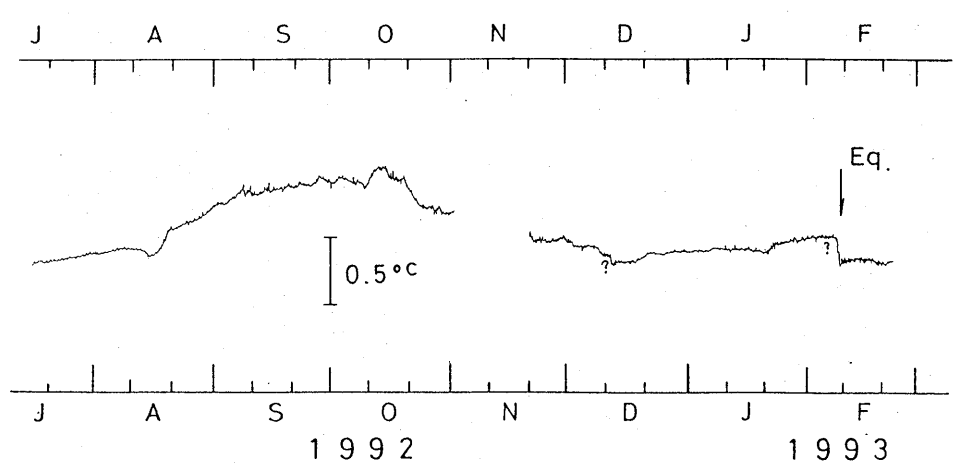
第 2 図

Fig. 2 Changes in temperature of hot springs in the Northern Chubu District related to the earthquake (M=6.6).



第 3 図

Fig. 3 Change in temperature of hot spring at Shiramine.



第 4 図

Fig. 4 Change in temperature of hot spring at Nigorigo.